

国
語

問題冊子

注意事項

試験開始の合図があるまで、この冊子を開けないこと。

- 1 この冊子の本文は10ページまでである。印刷の不明な箇所、ページの脱落などがあった場合は申し出ること。
- 2 解答は、問題ごとに、答案用紙(別紙)の所定の欄に記入すること。
- 3 答案用紙は、その一、その二、の二枚である。それぞれに、受験番号と氏名を記入すること。

記入例

受験 番号	氏名
1	大塚 茶織
2	
3	
4	
5	

- 4 答案用紙の解答欄上部の点線枠内には何も記入しないこと。
- 5 この問題冊子及び下書き用紙は持ち帰ること。

1

次の文章を読んで、問(一)～(七)に答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承ください。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(小笠原博毅「カントの『黒』」により、一部省略・改変して用いた。)

注 ○カントーイマヌエル・カント Immanuel Kant (一七二四～一八〇四)。哲学者。

○エーリッヒ・アディックスー Erich Adickes (一八六六～一九二八)。哲学者。

○底本ー翻訳の際に元にする本。

○ブルネットー褐色がかった色。

○アルタイ山脈ー中国、モンゴル、ロシアにまたがる山脈。

○エマニュエル・エゼー Emmanuel Chukwudi Eze (一九六三～二〇〇七)。本文中で言及されているアンソロジーは『人種と啓蒙主義 (Race and the Enlightenment)』。

○ア・プリオリー議論や知識が経験に先立つこと。

○カルチュラル・スタディーズー文化事象が社会、政治、経済等の特定の歴史的状況下で構築される過程を研究する学問分野。

○スペクトラムー境界が明確ではない状態が連続していること。

問(一) 傍線(1) 「結果的にカントの人種論という一つの知のテーマの轍を作ったことになる」とあるが、これはどういうことを述べているか説明せよ。

問(二) 傍線(2) 「哲学という領域の無垢さや非政治性を逆説的に作り上げてしまうことになる」とあるが、これはどういうことを述べているか説明せよ。

問(三) 傍線(3) 「『そんなもの』」が指す内容について説明せよ。

問(四) 傍線(4) 「結局『科学』は巨大な不可知論と裏表の関係でしかなくなってしまう」とあるが、なぜそのように言えるのか説明せよ。

問(五) 傍線(5) 「あらかじめ他者を消すつもりで他者性を捏造してきた」とあるが、これはどういうことを述べているか説明せよ。

問(六)

波線「あんなやつのは知らなくてもいいという無知の領域に押し込めてはならないのだ」とあるが、あなたは具体的にどのようなことを「無知の領域に押し込めてはならない」と考えるか、そう考える理由とともに説明せよ。字数は三百字程度とする。

問(七)

傍線(a) (e)の片仮名を漢字に直し、漢字は読みを平仮名で記せ。

次の文章は、後鳥羽院に仕えた作者が、院の身の出来事を綴った日記である。これを読んで、以下の問(一)～(五)に答えよ。

この部分に記載されている文章については、著作権法上の問題から掲載することができませんので、ご了承願います。

(『源家長日記』により、一部改変して用いた。)

注 ○殷富門院の大輔、讃岐、三河の内侍、丹後、少将―女性歌人の名。

○うけたまはりつめて―絶えず言い付かり続けて。 ○七条院―後鳥羽院の母。 ○重代―代々の歌人であること。

○歌のおく―巻物の末尾。 ○師光入道―歌人。 ○家のかぜ―家の伝統。 ○三位入道―藤原俊成。 歌人。

○ふたば―幼少期。 ○さほひたるさま―張り合っているようす。 ○あはつけし―うわついている。

問(一) 傍線(1)を、「さる人」の指すところを明らかにして現代語訳せよ。

問(二) 傍線(2)は、どういう状況であるということか、その理由とあわせて説明せよ。

問(三) 傍線(3)は、何についてどのように思っているのか、説明せよ。

問(四) 傍線(4)を、主語を補いつつ現代語訳せよ。

問(五) 二重傍線(a)と(c)について文法的に説明せよ。

(例)完了の助動詞「たり」の連用形

3

次の文章を読んで、問(一)～(四)に答えよ。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(『笑林』による)

注 ○楚―地名。湖北省のあたり。 ○淮南方―淮南王劉安が編んだ書物。

○螳螂―カマキリ。 ○伺―ねらう。

○斗―容量の単位。約一・九八リットル。 ○厭倦―あきあきする。

○嘿然―だまっているさま。 ○対面―人の目の前で。

○縛―しばる。 ○県―県の役所。 ○辞―報告。訴状。

○本末―いきさつ。 ○放―釈放する。 ○治―罪を問う。

問(一) 傍線(1)「執」、(2)「復」、(3)「汝」の読みを記せ。現代仮名遣いでよい。

問(二) 傍線(ア)「得螳螂伺蟬、自障葉可以隱形。」をすべて平仮名で書き下せ。現代仮名遣いでよい。

問(三) 傍線(イ)「妻始時恒答言、『見。』経日乃厭倦不堪、給云、『不見。』」を現代語訳せよ。

問(四) 傍線(ウ)において、県官が大笑いした理由を、本文全体をふまえて説明せよ。